

米国の脱炭素ビジネス最新状況 2025

～2025 年は脱炭素のパラダイムシフトの年、
日本のビジネスチャンスはどこにあるか～

一講師一

クリーンエネルギー研究所 代表 阪口 幸雄 氏

日時 2024年12月4日(水) 午前9時30分～12時30分
受講方法 ライブ配信／アーカイブ配信(2週間、何度でもご視聴可)

[重点講義内容]

米国は、1つの国というよりは、50州の寄り合い所帯で、連邦政府のエネルギーへの関与は限定的である。それが故に、州政府と民間がドライブする脱炭素ビジネスは千差万別で活気が溢れており、先行するカリフォルニア州には大きなビジネスチャンスが生まれている。

EVは、2023年の異常なシェア向上が一段落し、2025年は次の着地地点や成長モデルを探すフェーズになるであろう。テスラは、新技術の開発が大幅に遅れており、またロボタクシーの売り上げ寄与には数年を要する見込みで、中堅自動車メーカーの1社の立ち位置に落ち着くであろう。

水素やCCSは、規模拡大に時間がかかり、我慢くらべが続くが、2030年にはビジネス上昇の兆しが見えると予測している。規模拡大に向かった先行投資が可能な企業は限られているが、まずはニッチ分野で食い込めるかどうかのカギになる。再エネのインフラに関しては、米中の政治上の対立とは裏腹に、中国の静かな浸透が進むが、特定分野では日本メーカーの進出も進む。

これらの、相反する課題や対策が、現状を非常に見えにくくしているが、在米40年の講師が、いろいろな角度から切り込み、日本メーカーはいかに動くべきかを考える。

1. 突っ走るカリフォルニアのビジネスチャンスはどこにあるか

- (1) 2030年の60%、2045年の100%の再エネ発電目標に向かって関心は変わりつつある
- (2) ソーラーとバッテリーの新しいビジネスチャンス
- (3) 再エネ100%に向かって進む電力市場改革と日本への示唆

2. マイクログリッド化とデータセンター

- (1) 電力料金高騰や停電の頻発から自衛するマイクログリッド化が進む
- (2) データセンター向け電力投資の動向(原子力発電か、再エネ発電か)

3. 運輸部門のビジネスチャンス

- (1) EVや充電ステーションは一段落、コモディティ化は進むのか
- (2) テスラは普通の会社に
- (3) 水素ビジネスのチャンスはどこにある
- (4) 大きく伸びるバイオ燃料ビジネス
- (5) 周辺ビジネスにチャンスあり

4. 炭素価格とCCS

- (1) 炭素取引価格(Cap and Trade)や低炭素燃料基準(LCFS)クレジットの推移を読む
- (2) 今が、CCS投資のチャンス

5. 日本はこの流れの中で何をすべきか

6. 質疑応答

